

学校教育課だより

かけはし



学校教育課だより
「かけはし」
【第11号】
令和2年
3月18日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

一步前に

教育長 勝亦 重夫

記録的な暖冬の影響で、春が足早に近づいてきました。普段ならば何とはなしに華やいだ気持ちになるところですが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が発生し、先の見えない不安が社会全体に大きな影を落としています。有効な治療法やウイルスの特性等がはつきりしないことが私たちの不安を増長させています。とにかく、手洗い・うがいの徹底と不要不急な外出を避けることを徹底するしか方法はあります。収束の光が見えるように、皆で力を合わせていきましょう。

急遽、小・中学校の全国一斉の休業が実施され、教職員の皆さんには大変な苦労をお掛けしています。各家庭の工夫や放課後児童クラブの受け入れ時間の拡大など、多くの方の協力・支援があり大きな混乱もなく対応できていることに感謝します。年度の締めくくりの大切な時期にこのような状況になったので、子供たちに対して心残りのことも多かったと思います。しかし、異例の状況の中でもできる限りのことは子供たちにやってあげたいという教員の思いは、必ず子供たちの心に届いてい

ると思います。子供たちが困難に負けず、力強く次のステージに進んでくれることを信じています。

◇ ◇ ◇
「東日本大震災」の被災から九年が立ちました。未だに四万人を超える方々が避難生活を送っており、復興に時間がかかっています。日本全体でこのことを忘れずに、復興への支援を続けていくことを再確認したいと思います。大震災と今回の新型コロナウイルス感染症の流行に共通することがあります。それは、「物の買い占め」と「デマの拡散」です。
私は大震災直後に、生徒の引率で東京にいました。発災の二〜三時間後に、生徒の食料を確保しようとコンビニやスーパーを何件か廻ったものの、棚には水を含め食料は一

切ありませんでした。今後の不安から、必要以上のものを人々が買ってしまふことが品不足の大きな原因となります。今回も「マスク不足」が大きな問題となっています。需要が拡大したという要因もありますが、初期段階で大量に買い占めに走った人が残念ながら多くおり、そのことが人々の不安を煽ってしまった結果だといえるでしょう。そこには「自分だけ良ければ」という人間のエゴがあります。

また、「デマの拡散」も大きな問題です。SNSが日常のものとなり、簡単にいろいろな情報を個人が発信できるようになりました。そのため、巷には間違った情報があたかも真実のように出されています。今回の「トイレレットペーパー不足」がよい例となりました。間違った情報が拡散し、特に非常時には人々の不安が増長していきます。大震災の折にも、憶測で間違った情報が拡散したことは、記憶に残っていると思います。
御殿場市では、「心の教育」を大切にすることを基本としています。「物の買い占め」や「デマの拡散」は、人の心の弱さの表れです。今までの教訓

となる具体的な事例を使い、何が問題だったのか、どうすればよかったのか等、様々な論議を行うことによって子供たちの心の耕しができます。そのことが、子供たちが豊かに生きていくことに繋がっていきます。

◇ ◇ ◇
このような状況ですが、四月から小学校では新学習指導要領での学習が始まります。授業では、「主体的・対話的で深い学び」が求められますが、移行期間の間で実践を積み重ねていきますから、自信をもってスタートを切って欲しいと思います。今までに参観した授業では、授業中にグループワークを行い、最後に自分でまとめをして振り返りをするといった活動が多くなりました。ここで課題として多く聞かれるのが、グループワークが「深い学び」に上手く繋がっていないという事です。意見を出すだけに止まらず、議論につなげる工夫が必要であると感じます。
新しい時代に対応した教育というのは、奇抜なことや今までと違ったものをするのではなく、これまで大切にしていた「自ら考え、判断し、主体

的に行動する自立した人間の育成」を大切にしているのです。これからさらに、各学校の教

育実践を深めていただくことをお願いいたします。

「ワンチーム」を思い出して



教育監兼学校教育部長兼教育指導センター長

勝俣 純

第二次世界大戦後に国際連合が成立したように、人類はこれまで幾多の試練を乗り越え、その反省に基づく振り返りによって、より良い社会を築き上げようと努力してきました。大きな困難を乗り越えたときには、人と人の思いやり、助け合いがもつとも大切なことであることは言うまでもありません。不安に駆られて、何かを買い占めたり、誰かを責めたりしても、不安が不安を呼び、混乱は広がるばかりです。今こそ、公共心や公德心を大切に、身近な人々が信頼し合って生活していきたいものです。

フスタイルが変わってきているという見方ができそうです。数年前から自宅で仕事をしたり、テレワークや時差出勤などは働き方改革の取り組みの一つとして推奨されていたものですが、実際には、なかなかそれに踏み切れない状況であったことは事実でした。でも、今はそうせざるを得ない状況となつているため、できる人はやるというところまで浸透したといえるでしょう。

この騒動が終息したのち、働き方もこれまで通りに戻してしまうのは少々惜しい気がします。こんな時期だからこそ、今後の必要とされるものは、しっかりと残していきたいものです。

今年、卒業する児童、生徒のみなさんにとつては、もつとも思い出深い三月を仲間や先生方と過ごすことができませんでした。今年度末に退職される先生方は、離任式の実施さえおぼつかない中で、教育現場を去ることとなってしまっています。それぞれの学校、それぞれの学級で、何らかの工夫をして、大切な門出をできる範囲の中の演出をしてほしいです。また、コロナ騒動が終息した後に、再会の機会があつてもいいのかな…とも思えます。今はなしに、明るい未来に向かって、見えない不安に負けないように、あの「ワンチーム」の精神で、みんなで力を合わせていきたいものです。

が平成二十八年に十二月に制定されました。この度、御殿場南小学校の取組が静岡県のお茶に関する実践事例集に掲載されましたので、紹介します。

◇日本茶クラブを新たに発足しました。

◇プログラム①緑茶のおいしい淹れ方。②「静岡県茶手揉み保存会」勝又氏による手揉み茶作り体験。茶葉をレンジで蒸してホットプレートで緑茶に仕上げ。作った緑茶を飲んでみよう。③紅茶を作ろう。④作った紅茶を飲んでみよう。⑤抹茶をたてて飲んでみよう。

◇成果と課題

○お茶好きの男子がいるなど、日ごろ気付かなかった子供の様子を知ることができた。お茶に対する熱い思いがある子供の存在に気付いて嬉しい。

▽茶葉を手に入れることや、そのタイミングが難しい。地域のお茶畑に精通している方との連携が必要。

食育だより 「日本茶クラブ」による体験活動「御殿場南小学校」

静岡県では、静岡茶が児童生徒にとつてもっと身近なものとなり、健全な心と体を培い、豊かな人間性を育むとともに、毎日の習慣として静岡茶を飲むことを目的とした「小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する条例」

